

医療・介護従事者と協働する高機能ヘルス ロード創出に向けた社会実験について

茨城県土木部道路建設課
常陸大宮市建設部駅周辺整備推進課

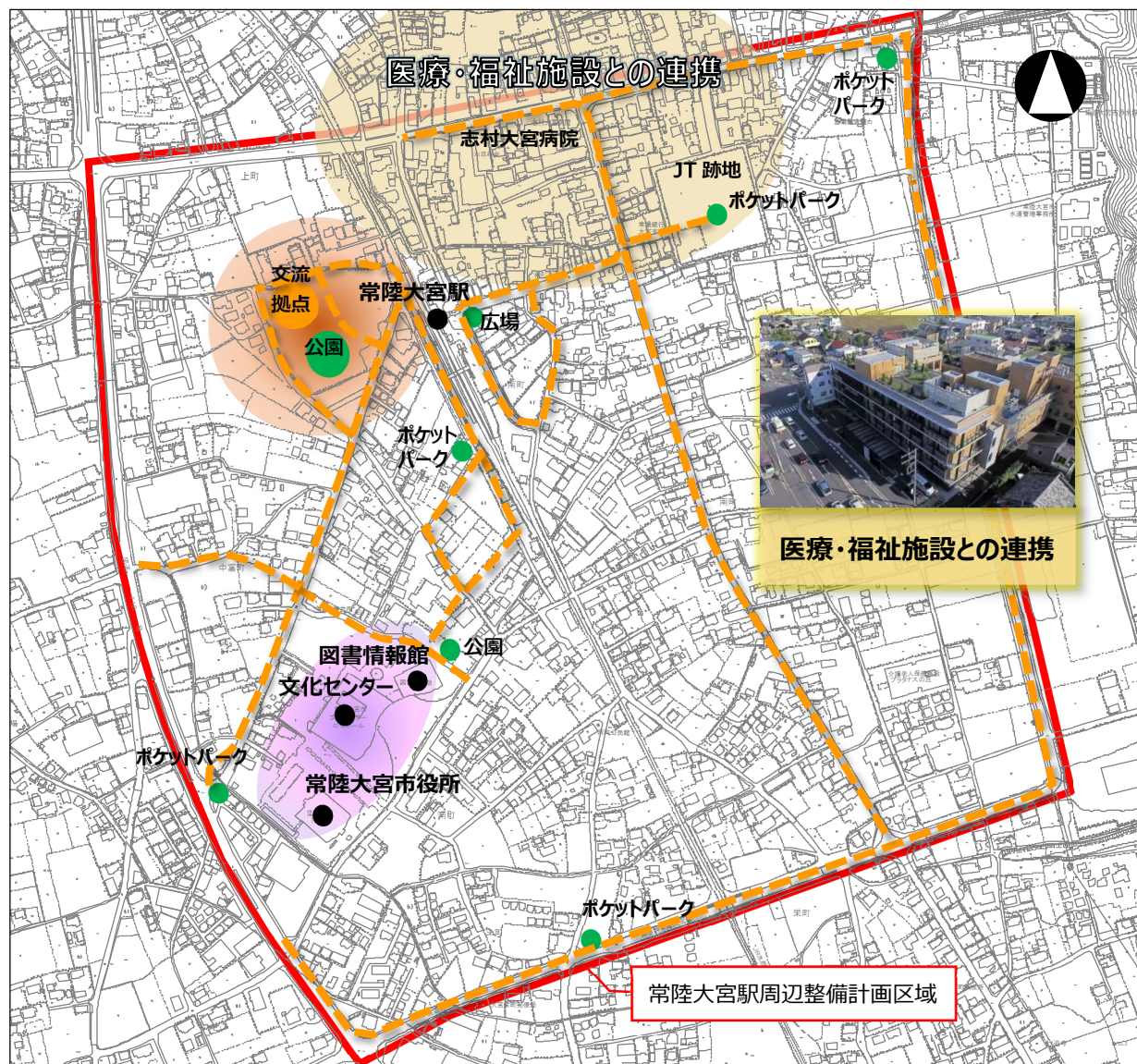
はじめに

常陸大宮市は、茨城県の北西部、首都東京から北東に 100 km、県都水戸から約 20 km の八溝山地及び阿武隈山地の南端と関東平野周縁台地北端の境界部に位置する、人口 39 千人、348 km² の自然豊かなまちです。

市を南北に縦断する国道 118 号と JR 水郡線常陸大宮駅の周辺を中心に市街地が広がっており、市役所、医療や福祉、子育て支援、商業等の生活関連サービス機能が集積しています。

人口減少、高齢化が進む中、常陸大宮市では、多世代が元気に安心して暮らせるまちを目指し、魅力ある市街地の形成を図るため「常陸大宮駅周辺整備計画」を策定しました。この計画では、駅周辺に集積する医療・福祉施設の利用者の安全、円滑な移動に配慮し、歩行訓練や機能回復訓練にも活用できる道路を整備することで、駅周辺道路を高齢者やリハビリを必要とする人、子育て世代など多様な人々が安全、快適に、歩きたくなるみちとすることを計画しています。





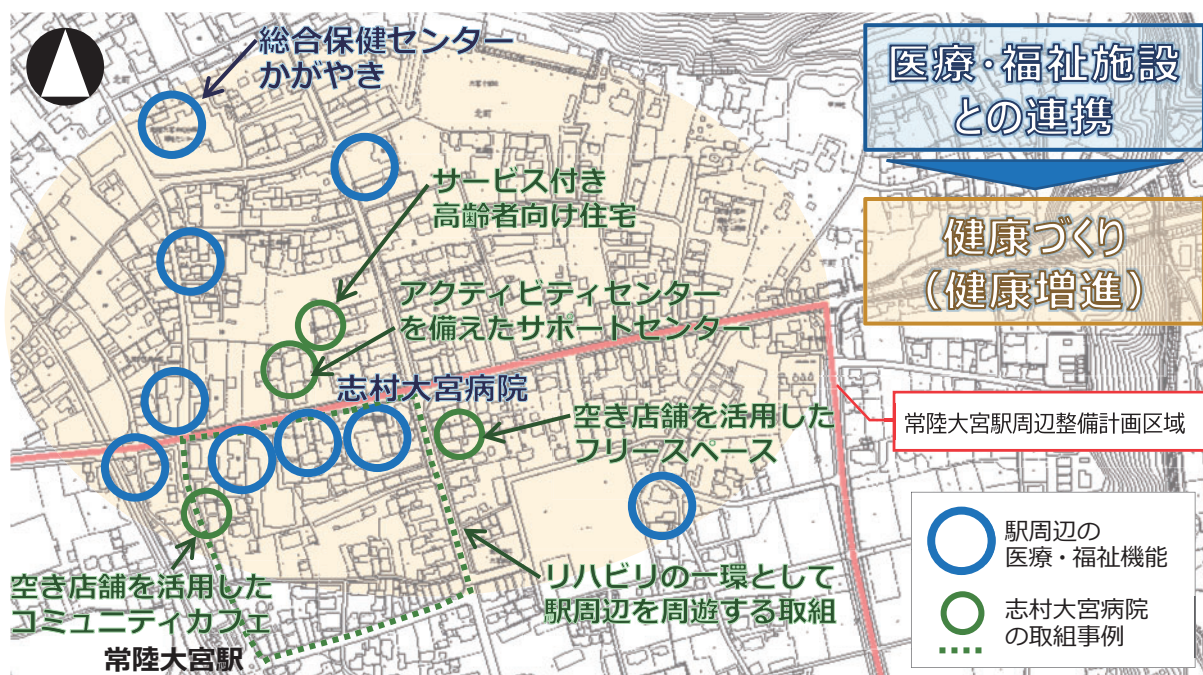
常陸大宮駅周辺整備計画

■常陸大宮駅周辺の都市計画道路

常陸大宮駅にアクセスする都市計画道路大宮停車場線は、全幅 16m で都市計画決定されていますが、現状は全幅 10m 程度で歩道がないうえ、駅周辺地区にもかかわらず移動の主体は自動車であるため、歩行者にとって安全、快適な道路環境ではありません。

そこで、道路整備にあたっては、歩行者の安全確保はもちろんのこと、本地区の特色である健康づくり（健康増進）をテーマにしたまちづくりに資するものとし、医療、福祉施設利用者をはじめ多様な人々がまちなかを歩きたくなるような道路にするため、官民が連携して当該道路のあり方を検討することとしました。

この「まちづくり」「健康増進」の両方において、駅周辺に立地し地域医療の核を担っている志村大宮病院が、空き店舗を活用したカフェの運営やフリースペースの整備、リハビリの一環としての駅周辺の周遊など、様々な取り組みを行っていることから、全面的にご協力をいただくこととしました。



サポートセンター
(出典：医療法人 博仁会HP)



空き店舗を活用したフリースペース
(出典：フロイデDAN facebook)



空き店舗を活用した
コミュニティカフェ

志村大宮病院の取り組み

■社会実験の実施

将来のまちづくりを見据えた道路整備にあたっては、行政が地域のニーズに合った道路を造ることと、市民がその道路を有効に利活用することが重要と考えました。また、高齢者やリハビリ患者の歩行にも優しい道路とするためには、実際に歩いてもらうこと、そのうえで医療・介護従事者の専門的な意見を伺うことが必要です。これらの目的のため、社会実験を実施することとしました。



都市計画道路 大宮停車場線の現況



協議会の様子

社会実験の実施にあたっては、県、市、病院、地元代表、警察、バス会社などで構成する協議会を設置し、これらの方々からご意見、ご協力をいただきながら進めました。

また、本実験は国土交通省の公募型社会実験に採用され、国からの有識者の派遣や、実験経費の負担など、様々な支援をいただきながら実施することができました。

■社会実験の概要・結果

社会実験は、警察の指導により現道を片側相互通行に規制し、バス会社の協力によりバスの運行や安全に配慮しながら、将来の道路整備後の歩行空間として幅員 4.5m を再現して、以下の3つについて行いました。

実験内容		検証内容
①	歩道を「一般歩行者レーン」と「高齢者・リハビリ患者等優先レーン」に分けた歩行実験	高齢者、リハビリ患者の歩きやすさ、安全性、必要な幅等の検証。
②	歩行補助車の走行実験	歩行補助車の有効性、安全性、必要な幅等の検証。
③	ベンチの設置、キッチンカーの出店など「歩きたくなるまち」づくりに向けた環境創出実験	滞留スペースの有効性、必要な広さ等の検証。



社会実験の概要

実験は、新型コロナウイルス感染症対策に細心の注意を払いながら、平日1日、休日1日の計2日間行いました。2日間の来訪者の合計は約1,500人に上り、実験前の我々の想定をはるかに上回る方々にご参加いただきました。

この実験により、医療、福祉施設周辺や高齢化が進む地域における「高齢者・リハビリ患者優先レーン」の有効性、歩行補助車との共存、オープンカフェやベンチ等の設置による滞留機能の向上を確認することができました。また、医療従事者からは、賑わいの中を歩くことが励みとなり、リハビリへの意欲が増すのではないかと意見があるなど、歩行機会や歩行意欲の増により健康増進が期待される結果となりました。さらに、これらの取り組みに対する市民（参加者及び沿道住民）の反応も良好であり、道路整備実施の実効性についても期待できる結果となりました。

■実験を終えて

今回の実験を終えて、実験項目それぞれの結果のほか、改めて発見できたものがありました。

実験前、当該地域の特性上、自動車交通がメインであるため、近隣に臨時駐車場を確保したものの、交通渋滞や駐車場不足が危惧されました。また、参加者の多くは高齢者であろうと予想され、「多様な人々が歩きたくなるみち」の検証ができるのか、さらに、キッチンカー出店について協力していただきましたが、売り上げを見込めるのか、など、様々な不安がありました。

しかし、多くの方が徒歩で来訪され、子育て世代が参加者の4割程度を占めるなど、当該地域の子育て世代の多さと、地域のイベントへの参加意識の高さを窺い知ることができました。また、出店したキッチンカーのほとんどは売り切れ、沿道の飲食店からも売り上げが伸びたとの声があるなど、道路空間の利活用とそれに伴う滞留機能の向上により、当該地域への大きな経済効果への期待と、当該地域にその素地があることが確認できました。



社会実験の様子

■今後の取り組み

常陸大宮市では、今年度より、駅周辺整備計画に基づき自由通路や駅前広場などの駅周辺整備に着手し、これに併せて、茨城県においても都市計画道路大宮停車場線の整備に着手することとしています。

都市計画道路大宮停車場線の整備にあたっては、今回の社会実験の結果を踏まえて、都市計画決定された幅員の範囲内での歩行者空間の確保（具体的には医療・福祉施設を含む周遊ルート側の幅員を広く確保）し、高齢者等の優先レーンや道路空間の利活用を前提とした道路構造とするなど、引き続き、市民や医療・介護従事者の方のご意見を踏まえながら、進めていく予定です。

今回の社会実験の取り組みを活かし、整備した道路が地域の人々に有効に利活用され、地域の賑わい創出や健康増進に大きく寄与し、道路整備がまちづくりのきっかけになることを願っています。